

# 地域医療学

科目責任者 山内 かつ代  
学年・学期 1学年・1, 2学期

## I. 前 文

75歳以上人口は2025年までの間に急増、今後は85歳以上人口が2035年まで継続して増加することから、医療・介護の需要の最大化への対策が必要となる。国が策定した地域医療構想、地域完結型医療である地域包括ケアシステムの中で、医師および医療従事者はチームとして多職種で連携し、より良質な患者中心の医療サービスを提供することが責務である。このような状況のもと、医学生にとって少子高齢化や国際化など様々な問題を抱える地域医療の現状を学ぶことは非常に重要である。本科目を通してその多様な現状を理解するとともに、医学生として求められる地域貢献や国際貢献について考え、積極的に社会貢献をする心を育成することを目的とする。なお、本科目の目的の1つには地域の各施設において体験型実習を行う、コミュニティヘルスインターンシップ（CHI）をより効果的に学修することも含まれる。

## II. 担当教員

主任教授	山内 かつ代	医学教育学講座／教育開発・国際交流センター
特任教授	北村 聖	教育開発・国際交流センター
准教授	橋本 充代	教育開発・国際交流センター 地域医療教育部門
講師	金子 堅太郎	教育開発・国際交流センター 地域医療教育部門
非常勤講師	中野 智紀	南越谷内科クリニック 院長
非常勤講師	駒橋 徹	鹿沼病院 院長
外部講師	岩佐 景一郎	栃木県保健福祉部 部長
外部講師	遠藤 薫	サンフラワークリニック
外部講師	皆川 美都恵	栃木県立栃木特別支援学校 肢体不自由教育部門
外部講師	名知 仁子	ミャンマーファミリー・クリニックと菜園の会 代表理事

## III. 一般学習目標

- (1) 地域社会における医療の役割と課題を理解し、地域包括ケアシステムの中で医療者が果たすべき責務を説明できる。
- (2) 多職種連携の重要性を理解し、患者中心の医療を実現するために協働する姿勢を身につけられる。
- (3) 地域および国際社会における健康課題を多角的に捉え、将来の医療者として社会に貢献する態度を涵養する。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 地域医療とは何か、説明できる。
- 2) 地域包括ケアシステムの機能と役割について理解できる。
- 3) 地域における施設（医療施設、高齢者施設、社会福祉施設）の種類および特徴について説明できる。
- 4) 健康の社会的決定要因（SDH）を列挙できる。
- 5) 栃木県における地域医療について説明できる。
- 6) 国際的な視野での地域医療を理解できる。

## V. 授業計画及び方法 \*（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
- 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
- 6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	4	27	月	7	地域医療学概論	山内 かづ代	1, 2
2	5	1	金	5	地域医療と地域包括ケアの実際	中野 智紀	1, 2
3		8	金	5	健康の社会的決定要因 (SDH)	金子 堅太郎	1, 2
4		15	金	5	栃木県の地域医療行政	岩佐 景一郎	1, 2
5		29	金	5	地域医療と総合診療	北村 聖	1, 2
6	6	5	金	4-5	地域における精神科医療 (医看合同講義)	駒橋 徹	1, 2
7		11	木	5	地域医療と公衆衛生	橋本 充代	1, 2
8		12	金	4-5	社会福祉施設・特別支援学校とは (医看合同講義)	遠藤 薫 皆川 美都恵	1, 2
9	7	6	月	5	地域医療と国際支援	北村 聖	1, 2
10		10	金	3	地域医療の原点とは何か? ~ミャンマーでの保健医療活動を通じて~	名知 仁子	1, 3

## VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

授業態度・積極性 (事前事後学習の取り組みを含む) (20%), 期末試験 (50%), レポート (30%) を基準に総合的に評価する。総合評価が60点以上を合格とする。なお、2/3以上の出席がない場合は、評価対象としない。

### 【アンプロフェッショナルな態度への対応】

地域医療学ならびにCHIにおける特筆すべきアンプロフェッショナルな態度は、以下の5点をいう。いずれかに該当する場合は、減点または単位認定を保留とする。

- 1) 講義・演習・実習への無断遅刻 (一切認めない。10分以上の無断遅刻は無断欠席とみなす)
- 2) 講義・演習・実習への無断欠席 (一切認めない)
- 3) 講義・演習・実習に臨む姿勢が極端に消極的または医師を目指す者として不適切と認められる場合
- 4) 試験・課題における不正行為 (本学医学部試験及び成績評価に関する規程を準用する)
- 5) 課題・レポートにおける剽窃 (盗用) およびそれに準ずる行為 (同上)

## VII. 教科書・参考図書・AV資料

授業に関する資料はLMSにて提示する。

参考図書: 「改訂コアカリ準拠 地域医療学入門 改訂第2版」全国地域医療教育協議会監修 診断と治療社

「地域医療はおもしろい!! - 地域医療を癒す48の取材記 -」北村聖 ライフメディコム

「地域医療学ハンドブック: 君たちは地域医療をどう学ぶか」谷口晋一監修 デザインエッグ社

「ビジョンと戦略からはじまる 地域医療学のブレイクスルー」西方哲 中外医学社

その他、必要に応じて都度紹介する。

## VIII. 質問への対応方法

原則として、科目責任者: 山内かづ代 (commed@dokkyomed.ac.jp) が対応する。事前にアポイントメントを取ること。内容に応じ、授業担当者と連携する。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	◎
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	○
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

VI. 評価内容に対し、科目責任者、担当教員、指導者、同僚等より、授業時またはLMSを介しフィードバックを受ける。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

各授業の事前学修・事後学修については、科目責任者または担当教員よりLMSにて周知する。

（「シラバス別冊」を参照のこと）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊を参照のこと